

IR NAVI

アイアール
ナビ
vol.17

“KAITEKIの実現”

「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍の実現」

株主の皆様へ／取締役社長 小林喜光

もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス
新中期経営計画「APTSIS 15」がスタート!!

●第6期決算のご報告／事業構造改革を着実に実行し、増収、増益を達成しました。

証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第6期期末のご報告

平成22年4月1日 ▶ 平成23年3月31日

“KAITEKIの実現”

「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍の実現」

私たち三菱ケミカルホールディングスグループは、

当社グループ理念のもと、

機能商品・ヘルスケア・素材の3つの事業分野において

それぞれの事業会社が自律的に事業活動を行いながら、

グループ全体としてKAITEKIの実現を目指し、

協奏していきます。

グループ理念

Good Chemistry for Tomorrow

人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。

三菱ケミカルホールディングス

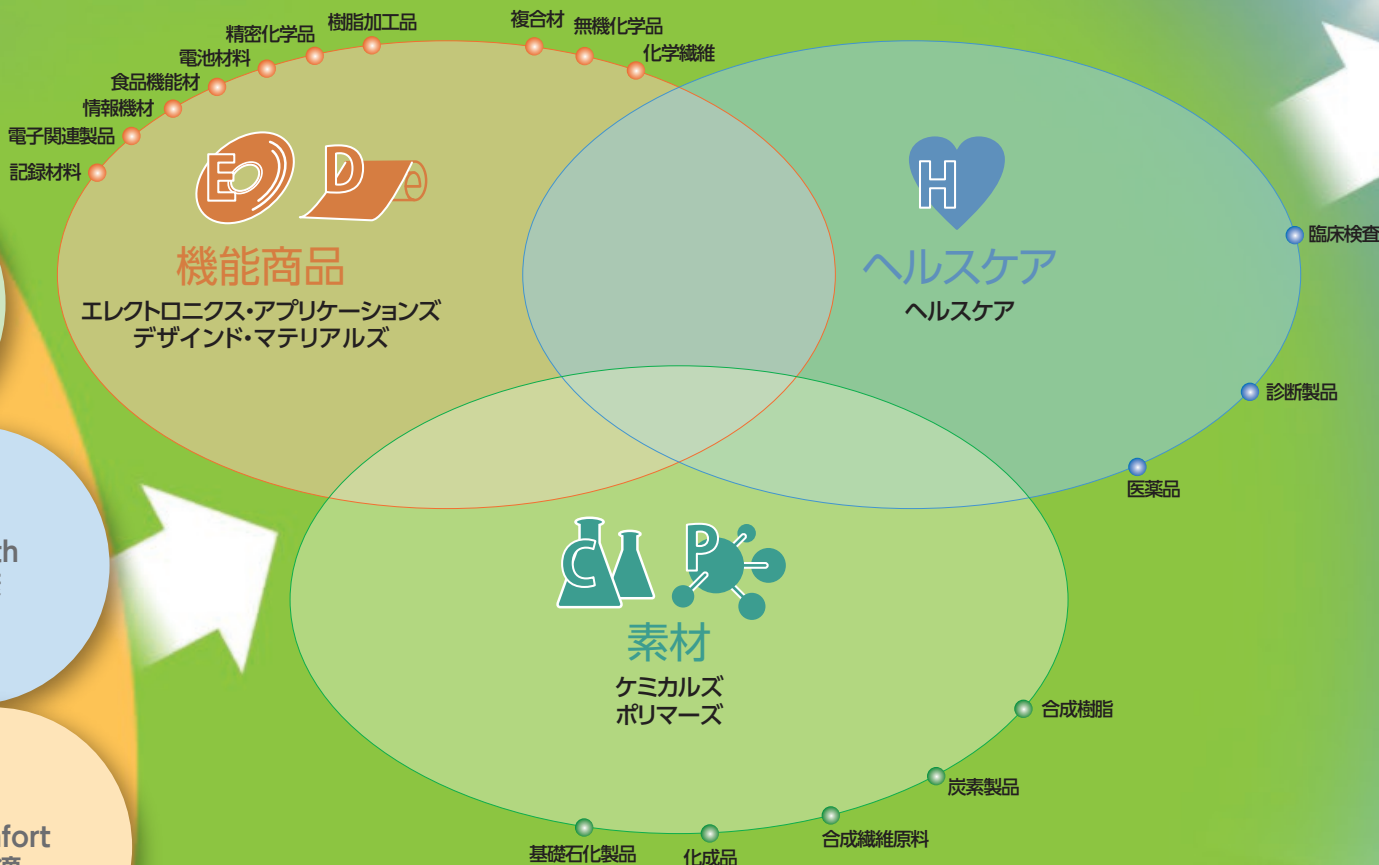
地球快適化
インスティテュート

三菱化学 田辺三菱製薬 三菱樹脂 三菱レイオン

Sustainability
環境・資源

Health
健康

Comfort
快適



KAITEKIの実現

KAITEKIとは、当社グループが21世紀において世界に発信すべきと考える価値。

それは、人間にとっての心地良さに加えて、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持ったもので、真に持続可能な状態を意味します。

当社グループは、Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)の3つを企業活動の判断基準として、KAITEKIの実現を目指していきます。

株主の皆様へ



取締役社長

小林 喜光

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年3月の東日本大震災でお亡くなりになられた皆様にご冥途にお見舞い申し上げます。また、被災地の日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

当期の日本経済は、円高が進行する中で、海外景気の下振れ等の懸念があったものの、設備投資や個人消費に持ち直しの動きが見られ、また、輸出が増加するなど、回復基調で推移してきましたが、東日本大震災の影響により企業の生産活動が急激に低下しました。当期において、当社グループは、当期が最終年度の中期経営計画「APTSIS* 10」のもと、事業構造改革と海外事業の強化・拡充に努めるとともに、昨年3月に子会社となった三菱レイヨンとのシナジー効果の早期実現、徹底したコスト削減、資産圧縮等の諸施策にグループを挙げて取り組みました。

当期連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りですが、需要の回復に加え、三菱レイヨンの子会社化等により、売上高は3兆1,667億円となり、利益面では、営業利益は2,264億円、経常利益は2,238億円、当期純利益は835億円となりました。こ

のような状況を踏まえ、当期の期末配当金につきましては、1株につき1円増配の5円とさせていただきます。

当社グループの現在の事業環境は、東日本大震災の影響により厳しい状況となっておりますが、当社グループは、被害を受けた製造拠点の復旧を当面の最優先課題とし、収益の回復にグループ一丸となって取り組んでまいります。また、当社グループは、「APTSIS 10」の成果と課題を踏まえ、新たな中期経営計画「APTSIS 15」を策定いたしました。その概要は後記の通りですが、当社グループは、「APTSIS 15」に沿って、将来の成長・創造・飛躍に向けた諸施策に積極的に取り組んでまいります。また、当社グループは、安全管理の徹底に取り組むとともに、コンプライアンスやリスク管理の重要性について各従業員にさらなる徹底を図ってまいります。

当社グループは、これらの経営諸課題にグループの総力を挙げて対処し、今後とも企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

CONTENTS

■ “KAITEKIの実現” 「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍の実現」……………1	■ もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス 新中期経営計画「APTSIS 15」がスタート!!……………9
■ 株主の皆様へ……………3	■ 財務諸表の概要……………11
■ 連結業績の概要……………4	■ 株式の状況……………13
■ 各事業会社の活動・トピックス……………5	■ 会社概要……………14
■ セグメント別業績……………7	

※「APTSIS」とは、Agility（俊敏に、とにかく速く）、Principle（原理原則・理念の共有）、Transparency（透明性・説明責任・コンプライアンス）、Sense of Survival（崖っぷちにあるという意識・危機感）、Internationalization（グローバル市場でのパフォーマンス向上）、Safety, Security & Sustainability（製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応）のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

連結業績の概要

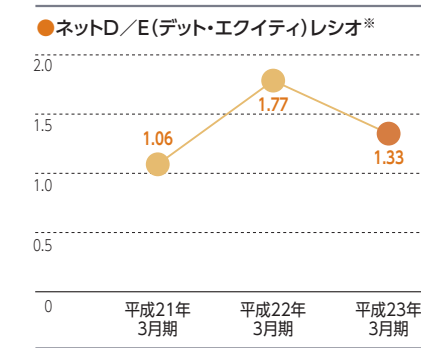
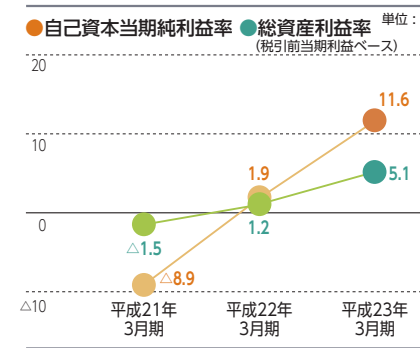
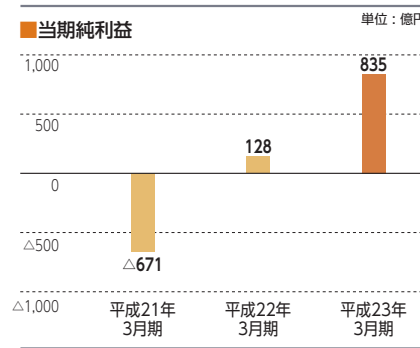
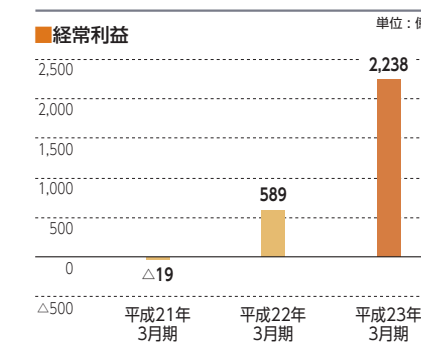
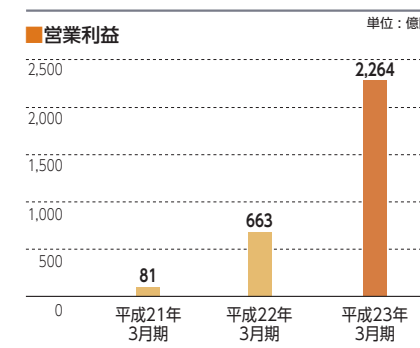
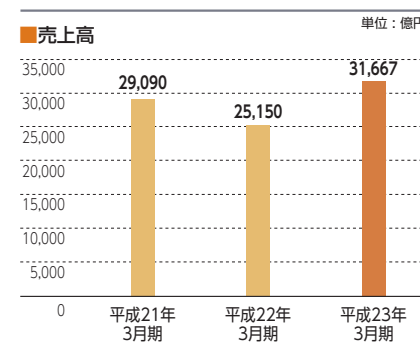
事業構造改革を着実に実行し、増収、増益を達成しました。

東日本大震災の影響があったものの、「APTSIS 10」の利益目標を達成

当期連結業績は、東日本大震災の影響があったものの、昨年3月の三菱レイヨンの子会社化に加え、機能商品分野及び素材分野における需要の回復により、売上高は3兆1,667億円（前期比6,516億円増）となり、また、利益面では、営業利益は2,264億円（前期比1,601億円増）、経常利益は2,238億円（前期比1,649億円増）となり、当期純利益は835億円（前期比707億円増）となりました。

総資産利益率が5.1%に向上し、ネットD/Eレシオも改善

総資産は、主に円高の進行に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が減少したことにより、3兆2,940億円（前期末比610億円減）となり、また、負債は、主に有利子負債が減少したことにより、2兆1,800億円（前期末比1,422億円減）となりました。この結果、総資産利益率は5.1%となり、ネットD/Eレシオは1.33となりました。



※ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
ネットD/Eレシオ = {有利子負債（割引手形を含む） - （現金・現金同等物+手元運用資金残高）} ÷ 自己資本

三菱化学

機能商品

- 水島、坂出、四日市の各事業所において、リチウムイオン二次電池用材料の生産能力の増強を決定（昨年5月、9月、10月）
- 中国において、昨年10月にリチウムイオン二次電池用負極材の製造販売会社を、また、イギリス及びアメリカにおいて、昨年11月にリチウムイオン二次電池用電解液の製造販売会社をそれぞれ設立

- 三菱化学メディアが、世界で初めて、調色/調光型有機EL照明パネル「VELVE」の量産に成功（本年2月）



photo by Toshio Kaneko
有機EL照明パネル「VELVE」

ヘルスケア

- 三菱化学メディエンスが、志村事業所において、日本唯一の世界アンチ・ドーピング機構公認のドーピング検査施設を拡充（本年3月）



三菱化学メディエンス志村事業所ドーピング検査施設

素材

- 坂出事業所において、高純度グラファイトの生産能力を増強（昨年8月）
- タイ石油公社（タイ）との間で、植物由来のバイオ樹脂の事業化を検討するための合併会社を設立（本年3月）
- 水島地区における基礎石化原料事業の統合のため、旭化成ケミカルズとの共同出資により、西日本エチレン有限責任事業組合を設立（本年3月）

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- 癌性突出痛治療剤「アクレフ口腔粘膜吸収剤」について、癌性突出痛の効能・効果で製造販売の承認を取得（昨年10月）
- 多発性硬化症治療薬「FTY720」について、日本国内における製造販売の承認を申請し（昨年12月）、また、導出先のノバルティス社（スイス）が本年3月、EUにおける承認を取得し、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ、ロシアなど世界35カ国以上で承認を取得
- 抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤



レミケード点滴静注用100

「レミケード点滴静注用100」について、クローン病における用法・用量の変更を承認申請（昨年12月）

- C型慢性肝炎治療薬「MP-424」について、日本国内における製造販売の承認を申請（本年1月）

三菱樹脂

機能商品

- 食品包装用の高性能多層フィルム「ダイアミロン」について、医療分野向けに本格的な事業展開を開始（昨年4月）
- メルシャン及びギリンビールと共同で、ワイン用ハイバリアPETボトルの商品化に成功（昨年6月）
- 中国において、ポリエステルフィルム事業の拡大強化のため、光学用ポリエステルフィルムの製造販売会社の設立を決定（昨年9月）
- グリーンイノベーションと共同で、薬用植物である甘草の人工栽培技術の研究開発を開始（昨年10月）
- 直江津工場において、アルミナ繊維「MAFTEC」の製造設備を増強（本年3月）



甘草の苗

三菱レイヨン

機能商品

- エスジーエル テクノロジーズ社（ドイツ）との間で、炭素繊維プレカーサー（炭素繊維向けアクリル繊維）の製造・販売を目的とする合併会社MRC-SGLプレカーサーを設立（昨年4月）
- 大竹事業所において、炭素繊維製造設備の工事を再開（昨年7月）
- 中国における下排水処理用中空糸膜の製造・販売等の合併会社設立に関し、北京碧水源科技社（中国）と基本合意（昨年12月）



素材

- 湖南石油化学社（韓国）との合併会社である大山MMA社（韓国）が、MMAモノマー及びアクリル樹脂成形材料の工場の増設を決定（本年2月）
- ルーサイト・インターナショナル社（アメリカ）が、ポーモント工場におけるメタクリル酸製造設備の新設を決定（本年3月）



ルーサイト・インターナショナル社（アメリカ）ポーモント工場

セグメント別業績

	単位:億円		三菱化学	田辺三菱製薬	三菱樹脂	三菱レイオン		()内の数字は対前期比	
機能商品	エレクトロニクス・アプリケーションズ 売上高 1,672 (1,524) 億円 営業利益 9 (14) 億円 売上高構成比 4.8%	デザイン・マテリアルズ 売上高 4,367 (6,575) 億円 営業利益 364 (133) 億円 売上高構成比 20.7%	E	D	D	D	エレクトロニクス・アプリケーションズ 売上高 1,524億円(148億円減) 記録材料…DVDの販売数量が減少 電子関連製品…ディスプレイ材料の売上は前期並み 情報機材…OPC、トナーの販売が堅調に推移 営業利益 9億円(24億円増) 半導体関連事業の増益等により増益	デザイン・マテリアルズ 売上高 6,575億円(2,207億円増) 食品機能材…海外需要の増加により売上げ増加 電池材料…ノート型パソコン向けの販売数量の減少 樹脂加工品…日本合成化学工業の売上げが通期で寄与 複合材…三菱レイオンの子会社化により売上げ増加 営業利益 364億円(231億円増) ポリエステルフィルムの販売数量の増加等により増益	
	ヘルスケア 売上高 5,044 (5,049) 億円 営業利益 710 (850) 億円 売上高構成比 15.9%	ケミカルズ 売上高 7,857 (8,954) 億円 営業利益 69 (529) 億円 売上高構成比 28.2%					H	H	
素材	ケミカルズ 売上高 7,857 (8,954) 億円 営業利益 69 (529) 億円 売上高構成比 28.2%	ポリマーズ 売上高 4,790 (7,311) 億円 営業利益 224 (550) 億円 売上高構成比 23.0%	C	P	C	P	ケミカルズ 売上高 8,954億円(1,096億円増) 基礎石化製品…エチレン生産量119万トン(4.5%増) 合成繊維原料…テレフタル酸の海外市況の大幅上昇 炭素製品…コークスの販売数量増加 営業利益 529億円(460億円増) 原料と製品の価格差の改善等により増益	ポリマーズ 売上高 7,311億円(2,521億円増) 合成樹脂…MMAモノマーの販売数量の増加、市況が好調に推移 営業利益 550億円(775億円増) 在庫評価損益の改善等により増益	
	その他 売上高 1,418 (2,252) 億円 営業利益 62 (45) 億円 売上高構成比 7.1%	その他 売上高 2,252億円(834億円増) エンジニアリング事業…三菱レイオンの子会社化により売上げ増加 物流事業…外部受注増加 営業利益 45億円(17億円減) エンジニアリング事業の外部受注の減少等により減益							

新中期経営計画「APTSIS 15」がスタート！！

「KAITEKIの実現」

当社グループは、中期経営計画「APTSIS 10」に続き、2015年度までの5か年の中期経営計画「APTSIS 15」を策定し、これを実行に移しております。

「APTSIS 10」の成果

基本方針:大収縮に即応し、構造改革、創造・飛躍を加速する

「APTSIS 10」における戦略的施策の実行

- 三菱レイヨンとの経営統合(2010年3月)
- 不採算事業からの撤退、高機能・高付加価値事業への積極的な投資による事業構造改革
- クオドラント社及び日本合成化学工業の連結子会社化
大陽日酸の持分法適用関連会社化(2009年9月)
- 水島地区における基礎石化原料事業の統合について旭化成と合意(2011年2月)

経営目標項目	2010年度目標	2010年度実績
連結営業利益	1,900億円以上	2,264億円
連結ROA*	6.0%以上	5.1%
CO ₂ 削減量	2016年度までに1990年度比20%削減	ほぼ計画通りに進捗

*ROA=税引前当期純利益/期首・期末平均総資産

2008年秋の金融危機による大収縮の影響は大きかったものの、事業構造改革、飛躍戦略を着実に実施し、営業利益目標を達成しました。

「APTSIS 15」の基本戦略と施策

- 体質強化** ▶ 協奏によるシナジーの発現、財務体質の改善、さらなる事業構造改革
- 成長** ▶ 高機能・高付加価値事業の強化
 - ▶ 持続的社会的な実現に貢献する事業の拡大
 - ▶ いまだ有効な治療方法がない医療ニーズに応える医薬品の開発
 - ▶ 事業のグローバル展開
- 創造** ▶ 将来を見据えた創造事業の育成・展開
- 飛躍** ▶ 戦略的な事業の買収や提携

積極的な資源の投入

成長・創造	
設備投資	1兆円/5か年
研究開発	7,500億円/5か年
飛躍	
事業買収・提携	5,000億円/5か年

事業ポートフォリオ

- ◆ 機能商品
- ◆ ヘルスケア
- ◆ 素材

「APTSIS 15」の事業ポートフォリオは、収益性・市場シェア・市場成長性等を勘案し、将来の収益の柱となることが期待される事業(創造事業)、大きな成長を期待する事業(成長事業)、安定した収益を上げる事業(基幹・中堅事業)、再構築を検討する事業(再編・再構築事業)の4分類としました。今後も、各事業の状況を見据えながら、ポートフォリオマネジメントを実行してまいります。

創造事業

- ◆ 有機太陽電池/部材
- ◆ 有機光半導体
- ◆ 高機能新素材
- ◆ 次世代アグリビジネス
- ◆ ヘルスケアソリューション
- ◆ サステイナブルリソース

成長事業

- ◆ 白色LED照明/部材
- ◆ リチウムイオン電池部材
- ◆ フラットパネルディスプレイ関連部材
- ◆ 機能性コンポジット部材
- ◆ 高機能成形部材
- ◆ スペシャルティケミカルズ
- ◆ アクア関連部材/サービス
- ◆ 医療用医薬品
- ◆ 高純度グラファイト
- ◆ 機能性樹脂
- ◆ MMA/PMMA

再編・再構築事業

- ◆ 基礎石化原料など

基幹・中堅事業

- ◆ 記録メディア
- ◆ 高機能フィルム
- ◆ 食品機能材
- ◆ 診断検査/創薬支援サービス
- ◆ テレフタル酸
- ◆ コークス
- ◆ フェノール/BPA/ポリカーボネート
- ◆ ポリプロピレン など

三菱ケミカルホールディングスグループの企業価値

当社グループは、営業利益や総資産利益率など財務指標を用いて資本効率を重視する経営学的な機軸と、革新的な技術を能動的に生み出すための技術経営的な機軸に、「MOS指標」による経営の新機軸を加え、これら3つの柱から生み出される価値を「KAITEKI価値」とし、これを当社グループの企業価値であると考えます。



MOS : Management of Sustainability
MBA : Master of Business Administration
MOT : Management of Technology

2015年度の目標

財務指標(基礎的企業価値)

営業利益	4,000億円
成長・創造 飛躍	3,300億円 700億円
ROA(税前利益)	8%以上
ネットD/ELレシオ	1.0以下
海外売上高比率	45%以上

MOS指標

- Sustainability指標**
- 地球環境負荷の削減への貢献
 - 省資源、エネルギー枯渇対応の実践
 - 調達を通じての環境負荷削減の貢献

Health指標

- 疾病治療への貢献
- クオリティオブライフ向上への貢献
- 疾患予防・早期発見への貢献

Comfort指標

- より快適な生活のための製品の開発・生産
- ステークホルダーの満足度の向上
- より信頼される企業への努力

財務諸表の概要

連結貸借対照表

科目	当期		科目	前期	
	[平成23年3月31日現在]	[平成22年3月31日現在]		[平成23年3月31日現在]	[平成22年3月31日現在]
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	13,966	13,691	流動負債	11,455	11,744
現金・預金	1,301	1,191	支払手形・買掛金	3,784	3,708
受取手形・売掛金	5,971	5,956	短期金融債務	4,766	5,220
たな卸資産	4,850	4,747	その他	2,905	2,815
その他	1,866	1,824	固定負債	10,344	11,477
貸倒引当金	△ 24	△ 27	長期金融債務	8,279	9,321
固定資産	18,973	19,859	その他	2,064	2,156
有形固定資産	10,883	11,670	負債合計 Point 2	21,800	23,222
投資有価証券	3,634	3,885	(純資産の部)		
のれん	1,548	1,716	株主資本	8,087	6,938
その他	2,906	2,586	資本金	500	500
資産合計 Point 1	32,940	33,550	資本剰余金	3,175	3,032
			利益剰余金	4,519	3,793
			自己株式	△ 107	△ 387
			その他の包括利益累計額	△ 505	△ 202
			新株予約権	6	6
			少数株主持分	3,550	3,586
			純資産合計	11,140	10,328
			負債及び純資産合計	32,940	33,550

連結株主資本等変動計算書

当期 [自平成22年4月1日 至平成23年3月31日]

(単位:億円)

科目	株主資本					その他の包括利益累計額	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
平成22年3月31日残高	500	3,032	3,793	△387	6,938	△202	6	3,586	10,328
当連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△123		△123				△123
当期純利益			835		835				835
その他		143	13	280	436	17		15	470
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△320	0	△51	△371
当連結会計年度中の変動額合計	—	143	725	280	1,148	△302	0	△35	811
平成23年3月31日残高	500	3,175	4,519	△107	8,087	△505	6	3,550	11,140

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当期		前期	
	[自平成22年4月1日 至平成23年3月31日]	[自平成22年4月1日 至平成23年3月31日]	[自平成21年4月1日 至平成22年3月31日]	[自平成21年4月1日 至平成22年3月31日]
売上高	31,667	25,150		
売上原価	23,796	19,539		
販売費・一般管理費	5,606	4,947		
営業利益	2,264	663		
営業外収益	346	274		
営業外費用	372	347		
経常利益	2,238	589		
特別利益 Point 3	66	316		
特別損失	610	473		
税金等調整前当期純利益	1,695	433		
法人税、住民税及び事業税	478	351		
法人税等調整額	△ 8	△ 247		
少数株主利益	390	199		
当期純利益	835	128		

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当期		前期	
	[自平成22年4月1日 至平成23年3月31日]	[自平成22年4月1日 至平成23年3月31日]	[自平成21年4月1日 至平成22年3月31日]	[自平成21年4月1日 至平成22年3月31日]
税金等調整前当期純利益	1,695	433		
減価償却費	1,486	1,295		
たな卸資産	△ 174	634		
営業債権債務他	△ 119	△ 1,202		
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,888	1,160		
有形・無形固定資産取得	△ 1,154	△ 1,205		
有価証券・投資有価証券取得	△ 1,074	△ 2,102		
その他	1,217	37		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,010	△ 3,270		
有利子負債	△ 1,263	1,145		
配当金他	△ 231	△ 201		
財務活動によるキャッシュ・フロー Point 4	△ 1,494	944		
現金・現金同等物に係る換算差額	△ 79	14		
現金・現金同等物の増減	303	△ 1,150		
現金・現金同等物の期首残高	1,125	2,264		
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	8	12		
現金・現金同等物の期末残高	1,437	1,125		

Point 1 **資産合計**
資産合計は、主に円高の進行に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が減少したことにより減少しています。

Point 2 **負債合計**
負債合計は、主に長期金融債務が減少したことにより減少しています。

Point 3 **特別利益・特別損失**
特別利益は、前期に計上していた負ののれん発生益がなくなったこと等により減少しています。特別損失は、東日本大震災による損失の計上等により増加しています。

Point 4 **財務活動によるキャッシュ・フロー**
財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済並びにコマーシャル・ペーパー及び社債の償還等により減少しています。

株式の状況

株式の状況 (平成23年3月31日現在)

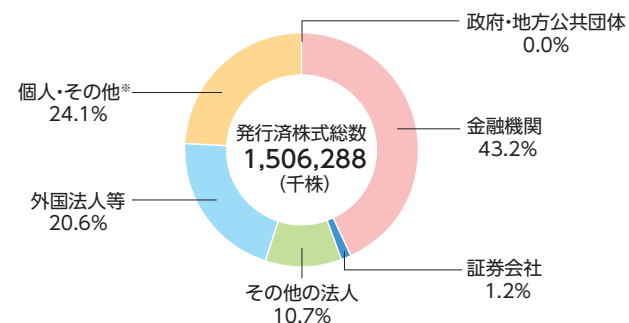
会社が発行する株式の総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	200,281名

大株主 (平成23年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	91,355	6.0
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	63,044	4.1
武田薬品工業株式会社	51,730	3.4
日本生命保険相互会社	49,429	3.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,105	2.7
東京海上日動火災保険株式会社	37,626	2.4
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	24,260	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	23,645	1.5
三菱UFJ信託銀行株式会社	20,289	1.3

※上記のほか、当社が自己株式として30,209千株を保有しておりますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有していません。

所有者別株式分布の状況 (平成23年3月31日現在)



※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

会社概要

会社概要

商号	株式会社三菱ケミカルホールディングス (英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
本店所在地	〒108-0014 東京都港区芝四丁目14番1号 (三菱ケミカルホールディングスビル) 電話 03-6414-4800
資本金	500億円

取締役 (平成23年6月24日現在)

富澤 龍一	取締役会長	
小林 喜光	代表取締役 取締役社長	
吉村章太郎	代表取締役 専務執行役員	経営管理室、 広報・IR室(IR)分担
露木 滋	取締役 専務執行役員	経営戦略室、 広報・IR室(広報)分担
土屋 裕弘	取締役	
吉田 宏	取締役	
鎌原 正直	取締役	

監査役 (平成23年6月24日現在)

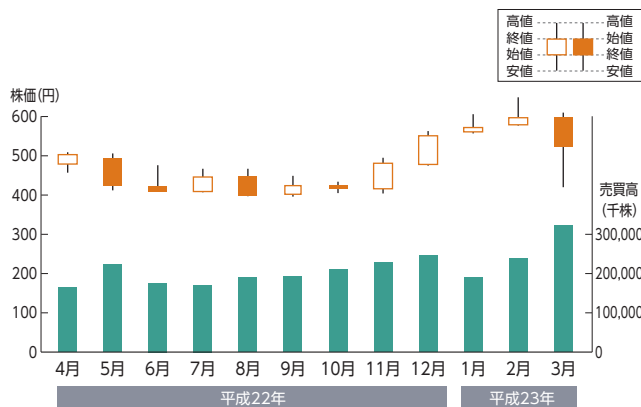
山口 和親	常勤監査役	
近藤 和利	常勤監査役	
西田 孝	常勤監査役	
鶴田 六郎	監査役	弁護士
水嶋 利夫	監査役	公認会計士

*西田 孝、鶴田六郎、水嶋利夫の3氏は、社外監査役であり、また、当社は社外監査役の3氏を、東京証券取引所及び大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

配当の状況

1株当たり配当金(円)			
	平成21年 3月期	平成22年 3月期	平成23年 3月期
中間	8	4	5
期末	4	4	5
合計	12	8	10

株価・株式売買高の推移(東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用下さい。
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>



当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

三菱ケミカル

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及び電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

IR NAVI アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報 (IR情報) をよりわかりやすく株主の皆様にはナビゲーティング (道案内) していきたいという意味を込めております。

世界化学年



2008年末に開催された国際連合の総会で、キュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目に当たる2011年を「世界化学年」(International Year of Chemistry: IYC2011)とすることが決定されました。

統一テーマ“Chemistry - our life, our future”のもと、

- ①化学に対する社会の理解増進
- ②若い世代の化学への興味の喚起
- ③創造的未來への化学者の熱意の支援 等

を目的に、世界各国が、化学の啓発・普及活動を行う予定です。

世界化学年について、さらに詳しくお知りになりたい場合は、世界化学年日本委員会のホームページ

<http://www.iyc2011.jp/index.html>

をご覧ください。

単元未満株式の買取・買増制度について

当社では、単元未満株式 (500株未満の株式) の買取のほか、買増を請求できる制度も導入しておりますので、単元未満株式をご所有の株主様は、ご利用をご検討下さい。

なお、ご利用の際は、証券会社の口座でお持ちの株式については、お取引先の証券会社でお手続き下さい。また、特別口座でお持ちの株式については、当社の特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行 証券代行部までお問い合わせ下さい。